

学校名 南城市立馬天小学校	連絡先 TEL : 098-947-6535 Eメール : basho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

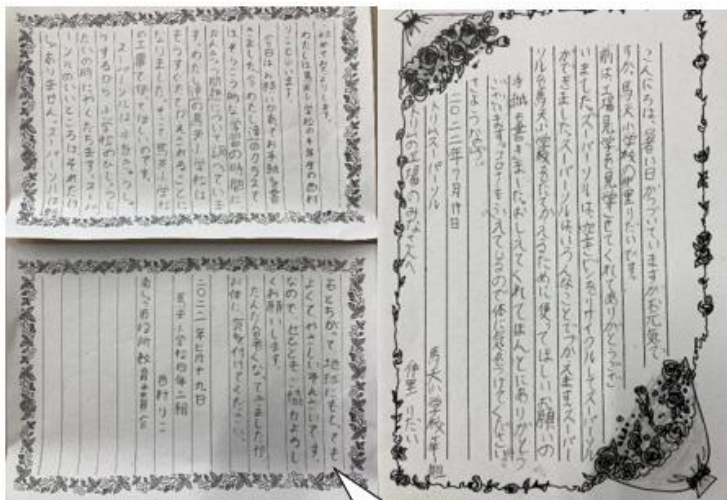
1 実践事項

タイトル：「〈チーム馬天〉で取り組む学力向上」

2 実践内容

(1) カリキュラムマネジメントの取り組みにおける学習指導

「目ざす児童像」に基づいて設定された「思いやる心」「表現する力」という資質・能力に重点を置き、それらが教科領域間で意図的・計画的に育成できるよう学年ごとにカリキュラムをデザインした。教科を横断的に学ぶことで、質的な学びの向上を図り、学期ごとに取り組む内容について情報交換を行うとともに、成果と課題を見いだしながら進めた。



社会科 ごみはどこへ

空き瓶をスーパーソルにリサイクルする。
「株式会社トリム」の工場見学に行きました。

国語科 お願いやお礼の手紙を書こう

「株式会社トリム」にお礼の手紙と、南城市役所に馬天小学校の校舎建築の時でスーパーソルを使ってほしいとお願いの手紙を書きました。

総合 環境エコプロジェクト

国語 みんなで新聞を作ろう

1学期のテーマの環境学習のまとめとして、新聞にまとめました。

教科横断的なカリキュラムの実践（4学年）

(2) 具体的な取り組み

①校内研と連動した授業の質的改善の取り組み

学力向上の取り組みと校内研の取り組みを連動させ、これまでの児童の実態から、国語科を中心に、児童が自分の考えを説明する場（表現力を高める場）を設定するようにした。また、児童が主体的に学習に取り組む授業展開ができるように、日常の授業の質を高める研究を各学年で行った。

②「そろえる馬天⑩」による学習環境づくり

「そろえる馬天⑩」を設定し、生活や学習の規律を図り、全ての児童が落ち着いて学習に取り組める環境を整えた。また、オンライン放送等で共通理解を図ったり、集会委員会が「みんな協力、すてき清掃週間」などを年に数回設定したりして取り組みの浸透を図った。

③語彙を増やし、読む力を高める朝の学習の推進

各種学力調査を通して課題となっている語彙力や読む力の育成を目ざし、国語科を中心に専用のテキスト等を使いながら、朝の15分の学習時間（モジュール学習）を継続的に行った。また、学校図書館を活用して、図書の時間には学校司書による本の読み聞かせや本の紹介を行い、読書を通じて、集中力を養い、読む力を高めるようにした。

④自主的な家庭学習の推進

宿題と家庭学習を区別し、教師から与えられた課題のみに取り組むのではなく、児童が自分に必要な学習を自ら考え取り組む家庭学習を「未来ノート」と名付け、各学年の児童の実態に応じて取り組んでいる。「新しい宿題」の考え方にに基づき、個人でできる学習は宿題（家庭学習）で行い、授業では互いの意見を出し合って深める協働的な学びを進め、限られた時数の中で効果的な指導を行った。

⑤生活リズムの確立に向けた取り組み

「早寝」「早起き」「朝ご飯」の基本的な生活習慣に基づいた生活リズムの確立を目指し、各学年学級において、学級指導を行った。また、1学期の調査から、全学年で「早寝」に課題が見られたことをもとに、専門家を招き、睡眠の大切さについて講話を通して学んだ。



講師による講話

⑥ICTを活用した授業の事例

4年生では、総合で世界のウチナーンチュ大会の講師の方をオンラインで繋ぎ、講師の方から世界のウチナーンチュ大会について学ぶことができた。また、国語科の「ふるさとの食を伝えよう」では、沖縄のふるさとの食のよいところを横浜市の小学生に伝え、交流を図ることができた。



オンラインを活用した授業

5年生では、Google が現在、学校向けに開発しているアプリの検証授業を算数科と社会科で行った。ペアで話している会話を、クロムブックにあるソフトが読み取って、会話の内容を瞬時に教師の端末に送られる仕組みとなっていた。児童同士が、積極的に意見を交換し、自発的な活動が見られた。



Google の検証授業

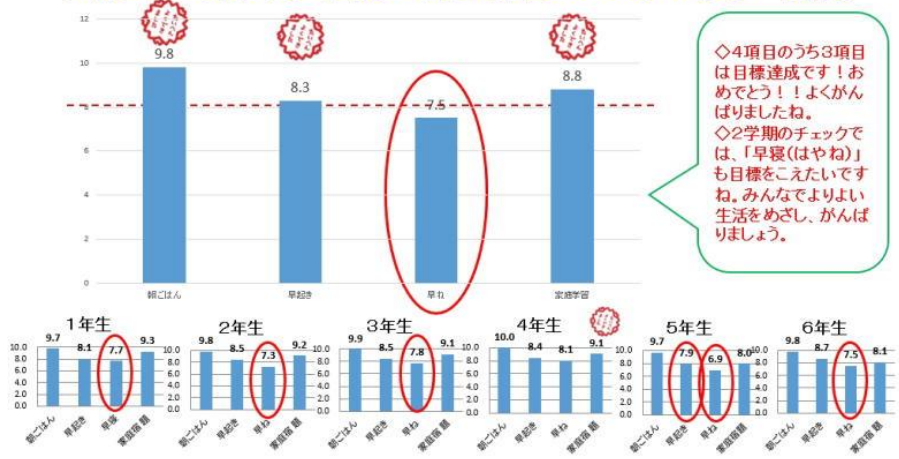
3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

(1) 視覚的カリキュラム一覧表の例（4学年）

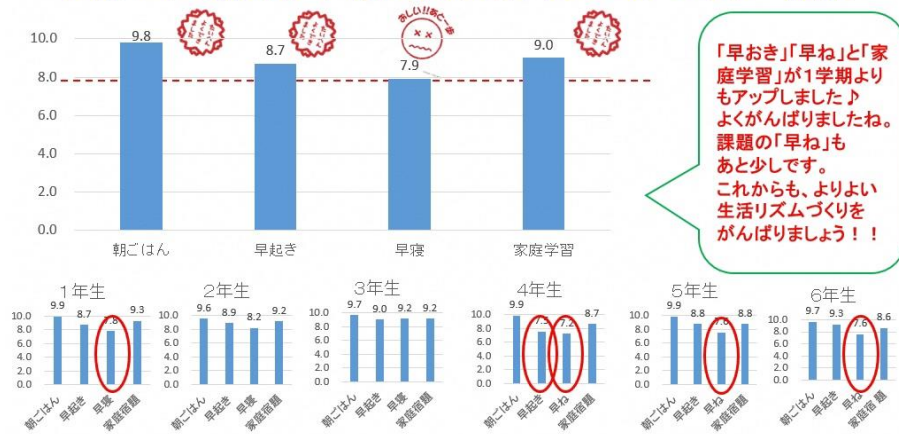
4学年のカリキュラムデザイン

(2) 生活リズムチェック表の成果と課題

令和4年 馬天小学校 5月生活リズムチェック 結果



令和4年 馬天小学校 9月生活リズムチェック 結果



4 成果

○目ざす児童像を職員が共有し、身につけさせたい資質・能力をベースに教科領域を横断するカリキュラムを計画実施することで、コロナ禍において時数が制約された中でも、効果的な指導を進めることができるようになってきている。

○よりよい生活習慣を形成するために、学級単位での指導や外部講師を交えての授業を積極的に行うことで、生活リズムチェックの結果に改善が見られた。

5 課題

●自主的な家庭学習の推進は、昨年度から継続的に実施しているが、質の高い学習ができない児童が一定数いる。やり方を具体的に指導するなど、丁寧な対応や取り組みの工夫が必要である。